

## 国立台湾大学との単位互換

近藤 恵<sup>1)</sup>、植野 高章<sup>1)2)</sup>、河田 了<sup>4)5)</sup>、近藤 洋一<sup>1)3)</sup>、瀧谷 公隆<sup>4)6)</sup>

大阪医科大学 中山国際医学医療交流センター<sup>1)</sup>、口腔外科教室<sup>2)</sup>、解剖学教室<sup>3)</sup>、  
医学教育センター<sup>4)</sup>、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室<sup>5)</sup>、小児科学教室<sup>6)</sup>

我が国において、高等教育におけるグローバル化が急速に進む中、医学教育においても「国際化」は避けて通れないものです。高等教育は、世界が直面する課題の解決に貢献するという使命があり、個人が属する地域や国をはるかに超えた、共通する課題や問題を克服する力を養うことが求められます。MOOC(Massive Open Online Course:大規模公開オンライン講座)をはじめとするオンラインでの教育など、教育の多様化、国際化も進んでいます。

各大学の取組により、留学先や協定校の拡大、受入れ留学生の増大といった量の拡充が続き、2015年度には日本に留学している留学生は20万人を突破しました。短期留学生が増加する一方で、高度人材育成と連動させて、優秀な留学生を受入れ、後に我が国で活躍する人材を育成するという観点から、単位互換、ジョイント・ディグリー、ダブル・ディグリーといったより深い交流、すなわち交流の質が問われています。本学においても例外ではなく、交流の質について精査する

とともに、本学独自の国際化について再検討を行いました。

医師、看護師といった国家資格取得を目指す医療系の学部においては教育カリキュラム上、長期留学は難しい状況にあります。全国医学部長病院会議によれば、全国医学部の90%(72校)で、学部学生の外国派遣プログラムが実施され、5、6年生の臨床実習プログラムでの交流がもっとも多く行われています。単位互換については、派遣先の大学における単位取得を派遣元の大学が認定する厳密な単位互換ではなく、派遣先の大学における評価表などを基として、レポート、報告会などの方法で総合的に派遣元の大学で判断し単位を与えるという方法が用いられています。

本学は、「人間性豊かな良質の医療人及び次世代のリーダー・グローバル人材の育成」を謳っており、本学の国際化の必要性は、「次世代のリーダー・グローバル人材」の育成にあります。

### 現在の協定校



2018年度交流実績

留学先国・地域別実績 (Global Exchange)				
国名・地域	大学名	受入	派遣	
アメリカ	University of Hawaii	4	0	
ロシア	Amur State Medical Academy	0	0	
タイ	Mahidol University	2	0	
韓国	Catholic University of Korea Seoul National University	2 4	0	
シンガポール	National University of Singapore	1	2	
台湾	Taipei Medical University National Taiwan University	0 4	2 1	
合計		11	3	

  

その他短期交流プログラム				
国名・地域	大学名	受入	派遣	
アメリカ	University of Hawaii	0	8	
タイ	Mahidol University	0	4	
合計		0	12	

  

その他学外国際交流				
【外部資金】 JST 21世紀サイエンスプラン 「臨床医会社会科知能と口語ケアプログラム」 ベトナム国家大学ハノイ校医学部 医学部生6名 / 教員1名				

ここでいうグローバル人材とは、政府が掲げる「世界的な競争と共生が進む現代社会において、日本人としてのアイデンティティを持ちながら、広い視野に立って培われる教養と専門性、異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築するためのコミュニケーション能力と協調性、新しい価値を創造する能力、次世代までも視野に入れた社会貢献の意識などを持った人間」(産学連携によるグローバル人材育成推進会議、2011)とも重なる部分が多く、そのために在学中の留学の機会を設けています。また、短期の留学であっても、単なる見学ではなく、一人の人間として、一医療人としての視野や知識を身に付けてもらいたいと考えています。

そこで、これまでの6年生の「選択臨床実習」での交流を見直し、2020年度より国立台湾大学医学部と単位互換を実施することになりました。2019年4月26日に単位互換協定を締結し、国立台湾

大学医学部5、6年生開講科目「International clinical elective I,II」と本学「選択臨床実習(海外)」で、2020年4月より単位互換をスタートさせます。原則4週間の研修とし、両大学同じ評価表を用いて、学生を評価し、互いに派遣先の大学で単位付与の審議を行い、単位認定を行います。

また、それに伴い、留学生の本学での臨床クラークシップも原則1科2週間のより専門性の高い学びのプログラムへと刷新致します。

単なる異文化体験、交流ではなく、医師としての専門性を高め、職業人として自分が持つ知識や技術がどのように役に立つのかをしっかりと自覚し、国際社会に貢献できる次世代医療人の育成を目指します。大阪医科大学医師会の先生方には、より一層のご指導とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



**国立台湾大学医学部との単位互換**

<p>【大阪医科大学】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆旧カリキュラム(2021年度まで) 6年生開講科目 「選択臨床実習(海外)」</li> <li>◆新カリキュラム(2022年度から) 5年生(1月～3月)、6年生(4月～6月) 「選択臨床実習 2A(2W),2B(2W),2C(4W)」</li> </ul>		<p>【台湾大学】</p> <p>5、6年生開講科目 「International Clinical Electives I」 「International Clinical Electives II」 ※希望する科によって、IかIIに振り分けられる。</p>
---	--	--

◆同一の評価表を用いて、実習を評価。評価表を用いて、受け入れ大学教授会で単位付与の審議を行い、単位を付与。

◆単位認定表をもとに、派遣大学で単位換算を行う。